

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号		院生氏名	栗田麻結
通学キャンパス			
論文題目	地域在住高齢者のフレイルとソーシャル・キャピタルの関係について ～新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて～		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>ソーシャル・キャピタル(Social Capital 以下、SC)の定義は、「調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴」とされ、2000年前後に公衆衛生分野や医療分野において健康とSCの関連が研究されるようになった。2010年前後から国内でもSCと健康に関する研究が隆盛となり、高齢者がフレイル状態となる要因の一つに、SCが影響を与えていることが考えられている。</p> <p>【目的】</p> <p>本研究の目的は、地域在住高齢者のSCの関係について、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえて明らかにすることである。</p> <p>【方法】</p> <p>地域在住高齢者245名を対象とし、2021年6月に自記式アンケート調査を実施した。基本属性、基本チェックリスト(点数が低い程、自立した生活を送ることができていることを示す)、SCに関する項目を、第1回緊急事態宣言の前と後でそれぞれ尋ねた。</p> <p>【結果】</p> <p>基本チェックリスト合計点の平均は、緊急事態宣言後に有意に増加した。緊急事態宣言前のSC強度と基本チェックリスト合計点には負の相関が認められた。多重ロジスティック回帰分析の結果、緊急事態宣言前のSC強度が高い人ほど緊急事態宣言後の基本チェックリスト合計点が増加していた。</p> <p>【結論】</p> <p>新型コロナウイルスによる自粛生活によってフレイルが進行し、元々のSC強度が高い人ほどその影響を受けやすいことが示唆された。Withコロナ時代のフレイル予防は、自粛生活でも行える工夫とともに個人のSCを考慮した方法が望ましいと考えられた。</p> <p>2) 研究方法、論証、論文形式の適切さ: フレイルおよびSCの先行研究に加え、両者に対する新型コロナウイルス感染症の影響についても掘り下げ、テーマとしての研究の必要性を指摘した。論旨の展開として3つの仮説を立て、その後の章で基本チェックリスト(フレイルの指標)、SC強度(SCの指標)をコロナ前後の指標の変化を解析し仮説検証を行っており、論文形式も適切であった。</p> <p>3) 知見の新規性と価値: 本研究の新規性は、フレイルとSCと新型コロナの3要因の関連を明らかにしようとする点である。これまでの研究では、フレイルとSC、新型コロナとSC、新型コロナと健康(身体活動や死亡率)という2要因の研究が主であり、新型コロナという因子がどのようにSCとフレイルに関係しているのかを調査した報告は見当たらない。本研究によりフレイル、SC、新型コロナの3要因の関係を考察することで、長引く新型コロナ禍の生活におけるフレイル予防、SCの醸成の方策の一助となる価値の高い研究である。</p> <p>2. 審査経過について: 12月8日(木)オンライン会議において論文審査に先立ち副論文審査を行い、必要条件を満たしていることを確認した。審査会では、1. 論文の構成、2. 論文の新規性、3. 用語の表現などについて質疑を行い、後日改めて、論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果: 論文提出者は、初回審査及び書類審査における質問事項に対して、丁寧に、かつ端的にまとめ回答を行った。研究者としての資質も有していると判断した。</p> <p>4. 合否について: 以上の結果から、審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	黒澤和生	
	副査	藤本 幹	
	副査	上別府圭子	